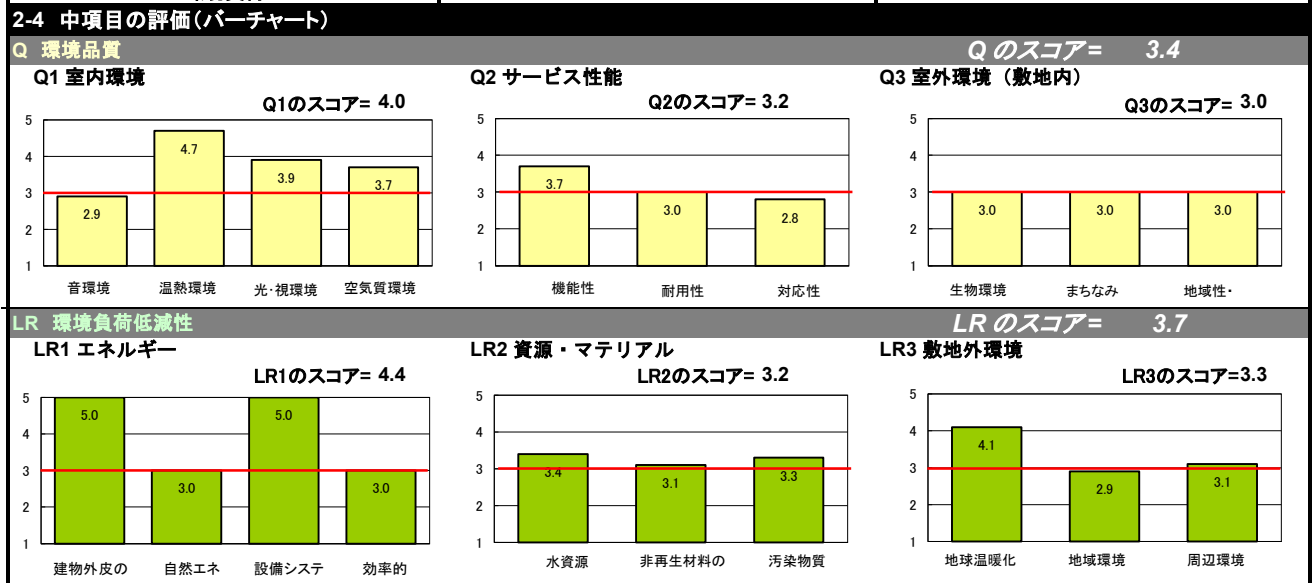
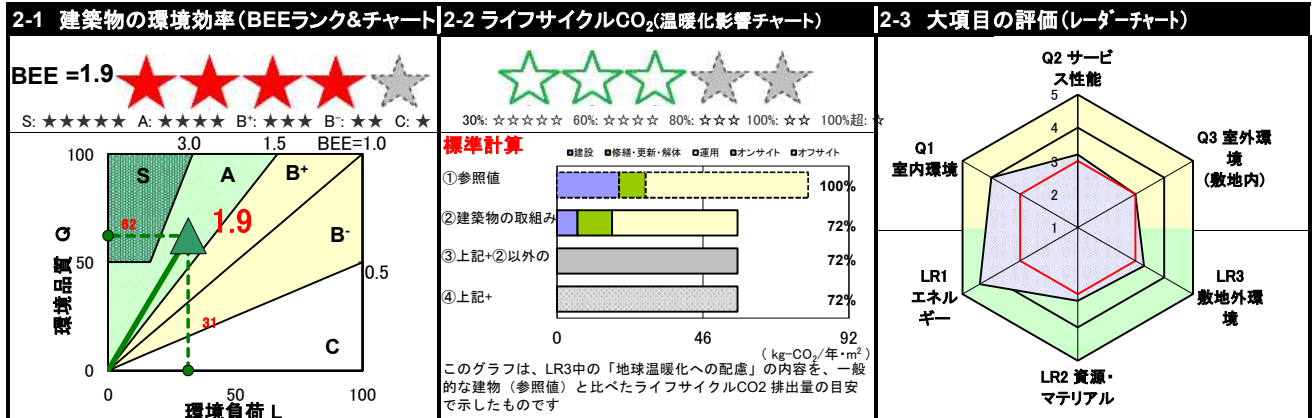


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サーバス針ヶ谷一丁目	階数	地上5F、地下0F
建設地	埼玉県富士見市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	163 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年4月30日
敷地面積	1,909 m ²	作成者	株式会社アーキタンソー級建築士事務所
建築面積	943 m ²	確認日	2024年4月30日
延床面積	3,057 m ²	確認者	株式会社アーキタンソー級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
総合 本建物は、みずほ台駅から近い場所に計画された共同住宅である。敷地内には豊富な植栽を設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。		その他 特になし
Q1 室内環境 ・各住居の窓は複層ガラスとし断熱効果を高めている。	Q2 サービス性能 ・劣化等級3を満足し、躯体の長寿命化に配慮する。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に中・高木をバランス良く植栽し、生物環境の保全と創出に配慮する。
LR1 エネルギー ・共用部の照明は全てLEDを採用し、省エネルギーへ配慮する。 ・潜熱回収型給湯器を採用し、省エネルギーへ配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・ノンフロン断熱材を採用し、ODP値及びGWP値低減へ配慮する。	LR3 敷地外環境 ・広告物照明の設置はせず、光害の抑制に配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)サーパス針ヶ谷一丁目■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.4
Q1 室内環境			0.40	-	-	4.0
1 音環境		2.0	0.15	3.0	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	5.0	1.00	4.7
2.1 室温制御		3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	<住居>住宅性能表示基準における断熱等性能等級5相当	3.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.5	0.25	4.0	1.00	3.9
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率	<共用>昼光率は2.5%以上<住居>昼光率は2.0%以上	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御	<住居>カーテンと庇を組み合わせて制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	<共用>タイマーによる自動照明制御	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	<共用><住居>全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量	<住居>基準法の1.4倍以上の換気量を確保	3.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.2
1 機能性		3.1	0.40	3.8	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	<住居>Gbitクラスのブロードバンドが利用可能	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性のある内装材の採用	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示基準における劣化対策等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長いビニル系床材やビニルクロスを採用	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種のうち、2種類にB以上を使用かつEは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.2	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり		-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり	-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級5相当	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.71	5.0	0.50	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水器具を採用	4.0	0.40	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	外壁:タイル	3.0	0.20	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材の分別が容易な計画	4.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満、GWP=50未満の断熱材を採用	4.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率:72%	4.1	0.33	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	広告物照明の設置なし	4.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

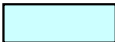
建物名称	(仮称)サーパス針ヶ谷一丁目	BEE	1.9	BEEランク	★★★★
------	----------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア					
4.1	+	3.0	=	7.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO ₂ の削減		スコア平均	4.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
<配慮した内容を記述> LCCO ₂ 排出率:72%			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 敷地内に中・高木をバランス良く植栽し、生物環境の保全と創出に配慮する。			

 : 入力欄